



# JSCA千葉ニュース(秋)

発行 一般社団法人 日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報・会員委員会)

〒260-0045 千葉市中央区弁天2-16-18 (有)市原建築構造設計事務所内 TEL043-225-2181 FAX043-252-6174

## JSCA千葉 第24回通常総会ズームで行われる

令和3年6月3日午後3時過ぎ、ズーム上で(株)相山建築都市総合事務所の相山誠治氏の司会により開会された。

次に(有)市原建築構造設計事務所の市原嗣久JSCA千葉代表よりコロナ渦中の総会開催について挨拶と会員に対して謝辞が述べられた。

会員数111名に対し総会出席者12名、委任状10通で市原代表が議長となり、議長の指名により(有)トマタニ構造設計の笹谷修作氏が書記に、(株)加藤建築設計事務所の加藤義道氏が議事録署名人に出出された。

第1号議案 令和2年度事業報告承認の件

第2号議案 令和2年度収支決算報告承認の件

第3号議案 規約改正の件

第4号議案 JSCA千葉役員(案)承認の件

報告事項1 令和3年度事業計画報告の件

報告事項2 令和3年度予算案報告の件

報告事項3 役員退任の件

各議案ごとに説明が行われ順次承認されていった。

今年の総会では例年にまして「規約改正の件」が特筆される。



↑議案説明画面

今年度の規約改正は主に若手構造技術者の発掘を目的にした、準会員制度の緩和(学生会員の無料制度など)が盛り込まれている。JSCA千葉にとって未来を占う深刻な事態となっていることが窺われる。

囲碁・将棋界、陸上界では十代の躍進がめざましいが、構造の世界はスターを求めているし成長に時間がかかるので同一視は無理かもしれない。

と考えている内に議事はすべて終了し休憩に入った。

休憩を挟んだ午後5時30分、(株)斉藤設計事務所の栗田毅氏の司会により懇親会が開会された。

(2面に続く)



## JSCA千葉・組織一覧

### ↑総会中のズーム画面はこのように見えます

代表役員	総務・会計委員会	貞弘 清英 涌井 栄治	ホームページ委員会	若手研修推進WG	広報・会員委員会
代表 市原 嗣久	◎ 佐藤 暢彦		◎ 佐藤 暢彦	涌井 栄治	◎ 佐藤 暢彦
副代表 佐藤 暢彦	笹谷 修作		貞弘 清英	栗田 毅	栗田 毅
〃 池田 格	相山 誠治		加藤 義道	池田 格	向後 章夫
(監査)	榊原 裕繁	専門委員会		向後 智弘	安田 良一
監事 園部 隆夫		◎ 市原 嗣久		阿部裕太郎	
向後 勝弘	技術・研修委員会	飯島 宏治		古川 優子	
顧問 木原 碩美	◎ 池田 格	木原 碩美		小林 直樹	
〃 飯島 宏治	加藤 義道	楠川 邦輔			
◎ 委員長	長内 光雄	園部 隆夫			
		向後 勝弘			

### 懇親会の様子 (近況報告)

市原:では皆さんの近況をお聞かせください。

安達先生:昭和41年に大学院に入ったときは多治見先生と同期でした。43年前母を送ったこと、ズームでのミラーリングのお話。(自分の見る画像は反対に見え、他者は正常に見える)

後藤:ルービックキューブを時間内に揃えるという隠し芸を見せます。

松永:最近趣味の作品をお見せします。

種も仕掛けもないスカーフが手の中で消えます。

片山:今年中にマイホームが欲しいです。とそこへ安達先生が「ああ、馬込沢に前住んでいたところが空き家になっていましてねえ」と飛び入り。(商談成立?)

園部:バラの花束を妻に送りました、、、。

向後:最近旅行に行ってます。青森、沖縄、台湾、や東南アジア。カンボジアは中国の人が多いです。

石橋:足裏マッサージが好きではまっています。小中高と野球部でした。今は観る専門です。

この記事が配布される頃にはヤクルトが優勝する事を願っています。(念願達成)

原田:最近、花を育てる事に興味が出て、ペチュニアを育てております。葉っぱなどに直接水をかけてはダメなようで、大変気を遣っております(笑)。

ハーブも蚊対策で植えだしました。

田島:最近の出来事で、ロードバイクの中古を購入しました。通常、10万円~20万円するのですが、ジモティで中古品が1万5千円で売ってましたので購入しました。しかし、サドルシートポストがくっついていて切断する修理をするのが、非常に大変でしたが今は楽しく乗っています。

市原:ボクもロードバイクに乗ってます。何処へ行くのもこれです。(このあと誰かがバイクの話しをしていました。女性もいらしたような、、、)

千ヶ崎:NETフリックスばかりですが海外の料理番組を見えています。

佐藤:クラウンというドラマが有るんですがこれ、良いですよ。(料理番組に関連してだったか、、、)

池田:社員が入ったのでうれしい。鏡の話はチョコちゃんに叱られるでやってましたね。左右は逆になるが上下は逆にならない、鏡の不思議。

筈谷:最近気になることと言えばアメリカ大統領選について、私はトランプさんのファンなので中国の謀略にはまり残念なこと。(B・ジャンプの裏で魑魅魍魎跋扈説。日本も似てきましたナ)

安田:基会所もコロナでほとんど通ってないです。なので間違いなさそうな古い本を読んでいます。(古事記艶やかでショと天から声が。国造りと子造り、作業が似て楽しか、、、昔々。)



↑写真は、近況報告中の会員の皆様



↑懇親会終了間際です

20時26分、ほろ酔い気味なところで栗田氏の発声で閉会になりました。



# アイス棒タワーコンテストを終えて

(株)池田構造設計 大倉 慧

令和3年11月27日(土)にJSCA主催のアイス棒タワーコンテストが新豊洲Brilliaランニングスタジアムにて開催されました。約半年の準備期間を経て、待ちに待った本番でした。当日は朝早く非常に寒い日でしたが、会場は多くの参加者で溢れており、参加チームには清水建設・大成建設・東京大学大学院・早稲田大学等のビッグネームも名を連ねていました。

各チームの作品には、ハニカム構造を利用したタワーや、法隆寺の五重塔のようにタワーの中心に心柱を立て、塔体と周期をずらして揺れを打ち消すようにしたものなど、面白いアイデアがたくさんありました。

本番では、どのチームもかなりハイレベルで、私たちも含めてほとんどのタワーは震度5弱程度では損傷すらしないう状況でした。結局どのタワーも倒れなかったため、デザイン性の観点から決勝進出チームが選出されることになり(アイス棒使用本数やタワー重量も加味)、私たちのタワーは惜しくも予選敗退になりましたが、耐震勝負で負けたわけでは無いと思っています。

決勝後には、予選の敗者の中から審査員の方々が選んだタワーに、観測史上最大の地震を加振する「最強トーナメント」と称したエキシビションが行われることになり、私たちのタワーが選ばれました。結果としては、私たちのタワーは



↑戦い終えた各氏、後列左から、向後幸夫さん、向後智弘さん  
前列左から、塚原秀人さん、阿部裕太郎さん、大倉慧さん

震度7の揺れにより大きく傾いてしまい、最強タワーにはなれませんでした。倒壊はしませんでした。

また、震度7になった瞬間ほかの二つのタワーがバキッと真二つに崩壊したときは地震の恐ろしさを感じました。表彰式では、審査員の細澤先生からスマートディティール賞を頂きました。貫を使った接合部が実務でも役に立つと評価されました。優勝や審査員特別賞のように賞金等があるわけではないですが、私たちの努力が認めて頂けたことが非常に嬉しかったです。

私は令和3年4月から構造設計の世界に入ったばかりの設計初心者ですが、このアイス棒タワーコンテストを通して、たくさんの知識、経験を得ることが出来ました。

最後に、このような勉強の場を与えて下さった関係者の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました

## 来春の新年会のお知らせ

期日: 令和4年2月8日(火)

場所: 三井サンガーデンホテル千葉

で開催予定です。記念講演会も予定されていますのご期待ください。



↑何度もなく開かれた製作会議の様子



**JSCA千葉・論壇**

英国グラスゴーで開かれた 国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP26)が11月13日に終了しました。

二酸化炭素、メタンガスの大量発生に伴う地球温暖化における気温の上昇について、この会議で産業革命前からの気温上昇を1.5℃に抑える努力を追求するとして「グラスゴー気候合意」が採択されました。この気温上昇に抑えなければ、近年世界各地で起きている熱波、山火事、大雨、旱魃等の異常気象の発生頻度が上がり、又海面上昇により存続が危ぶまれる国が出てきてしまう等、人類・生物全体の生存を脅かすと考えられる事態が深刻化してしまうと考えられるからです。特に注意しなくてはいけないのは、この事態が我々の愛する子や孫は勿論その先の未来の人類への影響が大きい事であり、今現在生存・活動している我々人間全体の現時点での叡智・賢さが必要とされる事です。

さて我々には何が出来るのでしょうか。「地球温暖化を逆転させる最も包括的な計画(The most comprehensive plan ever proposed to reverse global warming 著者(代表) PAUL HAWKEN(米国 環境保護活動家))」に示されている項目の第1は冷媒の適切な使用管理、第2は風力発電の活用(石炭火力発電の廃止は当然の事として)、そして興味深いのは、太陽光発電の大規模活用が第8となっており第3は食用廃棄物を無くす事、第4は植物性食品を中心とする食生活を中心とする事(牛、豚の肉を食べるのを減らすこと)等、我々の生活習慣にかかわりのある内容となっている事です。項目3の廃棄物を無くす事は人間の生産・消費活動の全ての

分野において考えられるべき事ですが、一方で飢餓に苦しむ人たちが存在する中で一方では度の過ぎた商業活動の結果として廃棄食品が発生する状況は改めなくてはいけません。又食肉用として飼育される牛豚は採食時に多量のメタンガスを排出し地球温暖化への悪影響が大きいという分析です。ちなみにフランスのリヨンでは「肉を食べない日」を設定し、それに真摯に対応している光景がテレビで放映されていました。

そして我々建築の世界では何が出来るのでしょうか。造るべき建築物がその構成材料の点から、その維持管理の点から、又その施工の点から省エネルギー的であることは論を待ちませんが、各分野におけるエネルギー源が、風力・太陽光・地熱・バイオマス発電等の自然エネルギーから得られるものであるべきことを強く認識し、それを実行していく事なのでしよう。

日本においては環境省が省エネルギーと創エネルギーとに拠りその建物の1次エネルギーの収支を正味ゼロとする建築物(ZEB: Net Zero Energy Building)の普及を目指しています。

今回の会合の開催国である英国は「グリーン産業革命」の旗手たらんと、大々的な洋上風力発電の活用に着々と歩みを進めています。同じ様に四面を海に囲まれた海洋国家である日本の歩みが遅いのは残念で仕方ありません。

建築は我々の日々の活動・生活において物心両面における拠り処となる大事な存在です。しかし大きな気候変動の前では、今まで養ってきた知恵や努力が水泡に帰す恐れがあります。全員で知恵を絞っていきましょう。

(文責: 楠川 邦輔)



**地盤改良(表層・深層混合処理)**  
**中径・小径鋼管杭のご相談は**  
**スリーエスG工法 伊田テクノスへ**  
**よろしくお願い致します**

伊田テクノスは地盤改良杭メーカーです。  
 現場ごとに管理者を選任し品質管理に力をいれています

**所有機械**

- ・GI50 20台
- 鋼管杭 柱状地盤改良 φ400～φ600
- ・GI80 4台
- 鋼管杭 柱状地盤改良 φ600～φ1200
- ・GI130 3台
- 鋼管杭 柱状地盤改良 φ600～φ1300 深度20m掘削



**営業担当: 千ヶ崎 健司**

**K-chigasaki@idatechnos.co.jp**

**TEL:047-441-6070 携帯:090-7903-4466**

**編集後記**

高橋さんが療養のため編集を降板することになり、ホームより出戻りました。

よろしくお願いいたします。あっという間に今年も後わずか。来年はどんな歳になっていることでしょうか。

様々な危機が迫っていますがスピードやダイヤ以外の価値観が必要なのだ。とは言ってもなあ。(安田)